



8月の園だより

令和6年8月1日

目黒区立祐天寺保育園園長

短い梅雨が去り、激しい暑さが続く7月となりました。この夏も熱中症対策として、暑さ指数を基準に活動の判断をしています。指数が危険域の31℃以上に達するとプールも水遊びも中止になりますので、早めの時間設定をしています。早い時間の登園にご協力いただきありがとうございます。

そんな中で、連日プールも水遊びも盛り上がりを見せています。幼児クラスでは、水のかけあいから始まり、プールの中をみんなでグルグル走り水流を作っては流れる感覚を楽しんだり、その中で保育士につかまらないように逃げたりと、歓声が止まりません。楽しい瞬間には、いくら顔に水がかかっても満面の笑顔です。5歳クラスでは、みんなが潜って逃げていると、少し水が苦手な子ども息を止めた瞬間にぶくっと頭まで水に沈めました。本人も「あ、潜れた」とちょっと目を丸くしています。楽しい心の開放は、子どもたちの力を最大に引き出してくれるようです。

さて、先日はあちこちのプランターで実った夏野菜を、プールの前に収穫し、調理室に届けました。昼には幼児の3クラスと一緒に、“ピーマンなすパーティー”と称し給食と共に食べたのですが、調理室で炒めてもらった野菜たちを手に保育士が、「わーおいしそう。食べるひとは？」と声をかけると、子どもたちの手がそれはそれは勢い良く上がりました。自分たちが育てた野菜への思いと楽しい雰囲気でもりもりと食が進んでいました。楽しい夏の体験の中で、子どもたちは逞しく心を動かしています。

今月は乳児クラスの水遊びの様子をお知らせします。

<行事予定>

プールじまい

中旬 避難訓練・身体計測



ルールは違うけれど

先日、3歳児が「先生、これ一緒にやろう」と絵合わせゲームを持ってきました。交互にめくりますがなかなか絵は合わず、順番が4回ほど回ったところで3歳児がカードを合わせました。嬉しそうな表情でもう一度めくり、今度は合わず「次、先生」と促してくれました。こちらも真剣に臨んでいますが思っていたところにカードがなく敢え無く交代、すると、保育士が一度めくったカードに手を伸ばし3歳児がカードをめくりました。この後、何をやるのかなと少しの間様子を見てると次々にカードをひっくり返しています。そして手にした物と同じ絵柄を見つけると「先生のあったよ、パトカー。これ先生の」と誇らしげに渡してくれました。そして自分が獲得したカードを横に置き「おんなじだね」と言いながら、今度は“自分の番”と裏返しカードに手を伸ばしていました。

そんなやり取りを横で見っていた5歳児が「ちょっと違うけどこんな遊び方もあるんだね、先生と二人でやっているからいいんじゃない。楽しそう」と肩をすくめ、ふふっと笑いながらいいました。生活や遊びの中で決まりやルールがあり、守ろうとする姿や、守られていないことに対して正そうとする姿も出てきます。遊び方を知っているうえで、少し小さな友達が楽しそうに遊ぶ姿に共感し“これでもいいんじゃない”と受け入れ、見守る姿にとっても嬉しく、心の成長を感じる場面でした。

副園長 竹内



0・1・2歳児クラスの水遊びの様子



ちゅうりっぷ組（0歳児）

《ポタポタ ピチャピチャ》

水遊びは、保育室と繋がるテラスで行っています。タライに入った水を目の前にすると、じっと見つめている子もいれば、保育士が「ぼたぼたぼた」と手ですくいこぼした水が手の甲に落ち触れて微笑んだり、自ら両手を水の中へと入れてパシャパシャと水しぶきを上げて「ああ！」と感激の声を上げたりと、水遊び一つにしても様々な子どもの姿が見られています。また、ペットボトルに開いた小さな穴から水がこぼれる様子に気付くことがあります。じーっと水の動きを見たり、こぼれ落ちた先の水溜りを指先で触れたり、次は水の入った容器をペットボトルの飲み口からこぼして入れてみようとしたり、日々、同じ遊びでも子どもたちの姿の変化が見られています。子どもたちが夢中になって遊んでいる時は傍で見守ったり、目が合った時には「気持ちいいね」「冷たいね」「何だろうね」と声をかけたりしながら、一人ひとりが水に触れて遊ぶ楽しさを味わえるようにしています。これからも、子どもたちの一つひとつの表情や仕草から保育士が思いを汲み共感しながら、暑い夏ならではの遊びを一緒に楽しみたいと思います。



たんぼぼ組（1歳児）

《あれ？》

水面を思い切り叩いて水しぶきが体にかかるとう声を上げて笑って喜んだり、カップに入った水を自分にかけてりして水の冷たさや気持ち良さを味わっています。

カップの水を移し替えて遊んでいると、水を移すことで片方のカップに水がなくなること気がつき、カップをのぞき込む姿がありました。「お水ないね」と保育士が声をかけると、もう一度同じことをして「あ」とまたしても不思議そうにカップをのぞき込み、空になったカップを見せてくれました。まるで「不思議だね」と言っているかのような表情です。一方では、じょうろから出てくる水に手を伸ばし握ろうとしたものの、つかめずに「あれ？」と不思議そうな表情を浮かべていました。遊びの中で五感を使ってたくさんの“試し”をしながら、様々な発見をしている姿が見られます。この夏“小さな研究者たち”の気付きに保育士も一緒に“そうだね”“おもしろいね”と応えながら水遊びを楽しんでいます。



ひまわり組（2歳児）

《はやぶさのジュース》

赤・青・黄色の色水を用意すると、1色ずつカップに入れてテーブルに並べ、「ほら見て、バナナジュースとイチゴジュースと・・・」とジュース屋さんになって保育士や友達に振舞っていました。「青は何のジュースですか？」と保育士が聞くと、「うーん」と少し考えて「はやぶさのジュース」と、好きな乗り物の色を思い浮かべたようでした。「はやぶさのジュースください」とお客さんが来ると、とても嬉しそうにしていました。他の子は、ペットボトルに、黄色の水を入れて、次に青の水を足してみると、「みて、緑になっちゃった」と思いがけない発見を慌てて教えてくれました。黄色でも青でもない色になったことに驚いたようです。「きれいな色になったね」と保育士が言うと、得意気に友達にも見せていました。それぞれイメージしているものや、気が付くことも違いますが、子どもたちの興味関心をキャッチし、更に広がっていくように日々、心をくすぐる変化を取り入れ楽しみたいと思います。

